

7 月 2 日発行の「中欧州熱波による物流への影響」にて、熱波や降雨不足に伴うライン川の水位低下についてお伝えしました。現在も中欧州では高温・少雨傾向が続いており、ライン川では低水位の影響が一段と顕在化しています。本号では、中欧州熱波による物流への影響について、続報をお伝えいたします。

1. 現在確認されている影響

西欧を中心とした熱波および降雨不足の影響により、ライン川では低水位状態が続いており、貨物船の積載制限が発生しています。そのため、貨物を複数船に分散して輸送する必要が出ており、輸送コストの上昇も確認されています。

当社の現地クレーム代理店からの情報によると、一部の内陸船舶では通常時の約 3 分の 1 程度まで積載量を制限して運航しているほか、航行可能な水路幅も狭くなっており、座礁や岸との接触を回避するため慎重な運航が行われています。また、カールスルーエ付近では河川流量が半月前と比較してほぼ半減しているとのことです。



ライン川の干ばつの様子 写真 AP/アフロ

さらに、コンテナ船社 Hapag-Lloyd は、ライン川の水位低下による喫水制限を理由として追加料金 (Low Water Surcharge) を適用しており、水位によっては輸送保証が困難になる可能性があるとも公表しています。

2. 今後の見通しについて

ドイツ当局の観測データによると、ライン川の主要観測地点では引き続き低水位状態が確認されています。ライン川は、欧州の重要な物流ルートであるとともに、発電や工業用水の供給など、流域の経済活動を支える重要なインフラです。ライン川沿いの一部の製造工場では、設備の冷却水としてライン川の水を利用しているため、水位低下が長期化した場合、必要な量の冷却水を確保できない、または環境上の取水・排水制限を受けることにより、工場の稼働率低下など生産活動に支障が生じる可能性があります。こうした生産面への影響が発生した場合には、製品供給の遅延や出荷量の減少など、物流・サプライチェーンにも波及することが考えられます。

今後の気象状況や降雨状況によっては、内陸水運への直接的な影響に加え、発電や製造業などの産業活動を通じた間接的な物流影響が拡大する可能性もあることから、引き続きライン川の水位、水温および流量の動向を注視する必要があります。

※上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



【出典】ドイツ連邦水文研究所 (BfG) <https://www.bafg.de>

ドイツ連邦水路・水運局 (WSV) <https://www.wsv.de>

ドイツ連邦水路情報サービス (ELWIS) <https://www.elwis.de>

Hapag-Lloyd AG <https://www.hapag-lloyd.com>

ライン川保護国際委員会 (IKSR) <https://www.iksr.org>



マリントップックス バックナンバー

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を払っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。